

院内・敷地内全面禁煙の取り組みと問題点 ～ 第二報 ～

安田 秀美、秦 温信、三橋 公美、竹林 武宏、高岡 和夫、堀田 大介
亀田すみ子、佐々木まり子、喜多 悦子、山谷 修司、井上 正俊、佐野 文男

札幌社会保険総合病院 禁煙推進委員会

当院では2000年元旦を期して院内・敷地内全面禁煙を実施した。当院における禁煙推進の活動成績について経時的に分析し報告するとともに全面禁煙実施後1年半を経過した時点での問題点とその対策について報告した。全面禁煙後、かくれ喫煙（トイレ、非常階段、玄関前など）、全面禁煙に対する苦情、禁煙を理由とする転院などの問題点が生じている。これらに対する対策を合わせて報告する。

キーワード：禁煙、病院

はじめに

近年喫煙に対する害は多く知られ、禁煙活動は活発化しつつある。しかし、我が国において喫煙に伴う身体的害を直接吸う医療機関、医療従事者に対する禁煙は思いの外進んではない¹⁾。当院では2000年元旦を期して院内・敷地内全面禁煙を実施した²⁾。当院における禁煙推進の活動成績について経時的に分析し報告するとともに全面禁煙実施後1年半を経過した時点での問題点について検討した。

対象と方法

当院における禁煙推進の活動成績について経時的に分析し報告するとともに全面禁煙実施後1年半を経過した時点での問題点について検討した。

成績

活動経過としては、1994年7月に病院運営会議において禁煙推進を提案し、たばこ自動販売機の撤去と売店のたばこ販売を廃止した。95年10月職員から禁煙標語を募集、優秀作品をポスターとして院内の各所に貼り、「禁煙がはじまる」という意識の啓発に努めた（図1）。

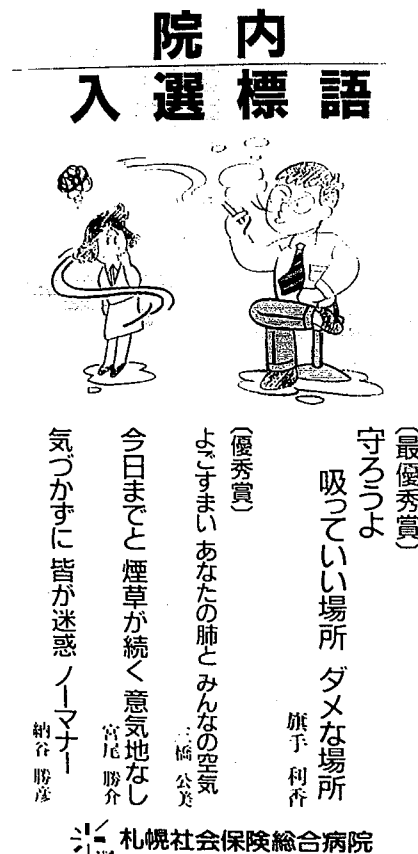


図1：院内入選標語

97年10月禁煙対策推進委員会を設置し「禁煙スケジュール」を討議し、院内誌等により職員へ周知、協力を仰いだ(表1)。

この間職員、患者を対象として計3回(95年10月、97年12月、2000年6月)の禁煙に関するアンケート調査を行い禁煙実施への参考とした。95年と97年では職員の喫煙の弊害に対する意識の高まりが顕著に見られた(図2)。

表1：禁煙推進スケジュール

1994年7月	たばこ自動販売機の撤去、売店でのたばこ販売を廃止
1995年10月	禁煙に関するアンケート調査・たばこに関する標語の募集
1997年10月	禁煙対策推進委員会設置。委員を委嘱 第1回委員会開催、禁煙対策スケジュールを検討
12月	禁煙に関するアンケート調査を実施(職員および患者)
1998年1月	院内に2000年元旦から全面禁煙を掲示
6月	禁煙推進特別講演会
7月	禁煙外来実施
10月	院内一部禁煙実施(各ナースステーション)、透析室の医師室・医局ACD・各部署事務室及び休憩室
11月	禁煙場所の定期的な点検
1999年1月	院内一部禁煙実施(医局B・手術室医師控え室・看護婦休憩室・各当直室)
5月	世界禁煙デーポスター掲示・世界禁煙週間の院内啓発放送
7月	院内一部禁煙実施(地下女子休憩室・喫茶室スズラン・外来喫煙室)
12月	禁煙特別推進月間(2000年元旦からの院内全面禁煙の啓発)
2000年1月	院内・敷地内全面禁煙

禁煙に関するアンケート 喫煙の弊害を意識しているか(喫煙職員)

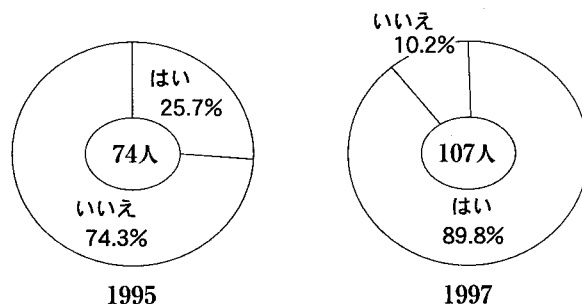


図2：禁煙に関するアンケート

98年1月からは2000年から全面禁煙の旨を掲示し、職員、患者様に対して周知していただくよう努めた。98年から毎年6月には世界禁煙デーにちなんでの行事(表2)、また98年7月からは禁煙外来を開始した。これは専任医師ではなくすべての医師が実施することとし、マニュアルを作成し(図3)、通常の診療と併設して行った。98年10月から院内の禁煙場所を4回に分けて徐々に拡大した。全面禁煙直前の99年12月には禁煙対策推進月間としてポスター展等を行い禁煙に対する啓発に努め、2000年元旦より院内・敷地内全面禁煙を実施した。

表2：世界禁煙デーにむけての特別講演会

(市民公開フォーラム)

平成12年6月1日【禁煙で健康をかちとるために】
司会 佐野 文男(札幌社会保険総合病院院長)
パネリスト
松崎 道幸(深川市立総合病院内科医長)
広田 洋子(北海道千歳保健所所長)
安田 秀美(札幌社会保険総合病院皮膚科部長)
特別発言
浜島 泉(札幌市厚別区保健福祉部長)
平成13年6月1日【禁煙で健康をかちとるために】
総司会 佐野 文男(札幌社会保険総合病院院長)
基調講演 櫻井 秀也(日本医師会常任理事)
「禁煙は愛」
パネリスト
清水 央雄(かもめ歯科院長)
高岡 和夫
(札幌社会保険総合病院呼吸器科部長)

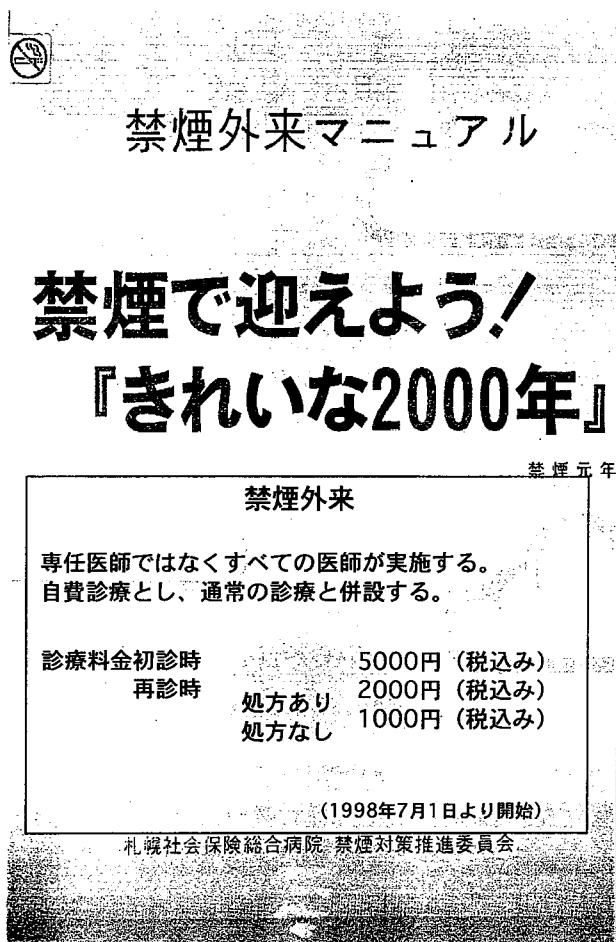


図3：禁煙外来マニュアル

院内・敷地内全面禁煙を実施後1年半経過し、禁煙についてはかなり周知されているが、問題点として①まだトイレ、非常階段、敷地内での喫煙が散見される。②禁煙に対する苦情、③禁煙を理由とする転院などがある。これらに対しては、①定期的に巡回し、吸い殻の清掃、禁煙に対する理解を求めるよう根気よく指導を続ける。②看護部を中心に入院患者で入院前に喫煙をしていた患者に対して禁煙相談、指導を行い、退院後も継続して禁煙指導を行う。③入院予約および入院時のオリエンテーションで理解を求めるよう努める。④市民公開フォーラム等で地域住民や医療従事者に対する啓発等を行う、等で理解が得られるよう努めている(表3)。

結 語

禁煙についてはかなりの理解は得られているが、一部に喫煙者がみられるのも事実である。社会的にも禁煙への動きは高まっており、今後地域の医療従事者や住民に対する啓発活動等によりさらに理解を得る必要がある。

表3：禁煙推進の取り組み—全面禁煙後—

2000年1月1日	院内・敷地内全面禁煙
1月5日	北海道新聞 記事掲載
3月27日	札幌市医師会厚別区支部だより 記事掲載
5月31日	禁煙110番への参加(禁煙週間) *市民公開フォーラム(市民27人・職員171人)
6月6日	禁煙に関するアンケート調査 (職員・患者)
8月1日	敷地内禁煙パトロール開始 (毎日6回)
2001年5月31日	禁煙110番への参加(禁煙週間) *市民公開フォーラム(市民41人・職員153人)
6月1日	敷地内禁煙パトロール強化月間
6月6日	世界の禁煙ポスター展(院内)

参考文献

- 1) 櫻井秀也、山田統正：日医の禁煙活動、日医ニュース第960号、2001
- 2) 秦 温信：院内・敷地内全面禁煙を実施して、北海道医報第949号、2000

The program for the complete smoking cessation project in our hospital and the project-related problems we have experienced — the second report —

Hidemi Yasuda, Yoshinobu Hata, Kiyomi Mitsuhashi,
Takehiro Takebayashi, Kazuo Takaoka, Daisuke Hotta,
Sumiko Kameda, Mariko Sasaki, Etsuko Kita,
Syuji Yamatani, Masatoshi Inoue, Fumio Sano

Smoking cessation promoting committee, Sapporo Social Insurance General Hospital

We have carried out a complete smoking cessation project for the past 18 months in our hospital facilities and the whole hospital-related area. In this report, first, we will introduce the actual program that we have used for this project. Secondly, we will show several clinical or social problems concerning this smoking cessation project, which we have experienced during this period. For example, patients frequently smoked out of sight in bathrooms, emergency stairs, and porches. In addition, some patients protested this smoking cessation project and moved to another hospital. We made efforts to perform initial guidance for patients by the time of admission, education of importance of smoking cessation for residents and para-medical staffs, establishment of the smoking cessation clinic.